

「メディアとのかかわり方について考えよう」

単元のねらい

メディアとのかかわり方について書かれた文章を読んで、筆者の主張を理解し、自分の考えをもつことができる。

いつ学習するの？

単元の指導計画

・全文を読んで見直しをもつ
・通読し、内容を理解する
・ 筆者の主張を理解し、自分の考えをもつ ・ 自分の考えを明確にし、発表する

自分なりの考えをまとめ、発表する際に、情報を受信するだけでなく、発信する側に立つことがあり、いろいろな立場での見方に配慮することも大切であることを知る。

どんな活動をするの？

🕒 実施時間：約7分

- マンガ資料を配付し、新聞を読んだ人の気持ちをいろいろな立場から考えさせ、発表させる。

考えを書かせるためのワークシートもWebに掲載しています。

白組の人が練習を必死でがんばっていたことも、記事にしてほしいと思いました。



地域の人は、どんな競技が行われたかを、もっとくわしく知りたいと思います。

- 読み手の立場によって受け取り方が変わること気づかせ、**情報発信の難しさや配慮の必要性**を考えさせる。

みなさんは、情報を受け取るだけでなく、発信する側になることもあるんですね。



- 情報発信には、自分の明確な考えを入れるとともに、**発信する情報に責任をもつ必要性や、いろいろな読み手がいることを想定して、ときには配慮すべき点があることに気づかせる。**



*ワークシートや指導案をWebからダウンロードすることができます。

キャリア教育の

子どもたちに気づかせたい宝

- 自分たちは情報を受け取るだけでなく、発信する主体にもなっている。
- 情報は発信の仕方や受け取る側の立場によって、伝わり方や事実のとらえ方が違ってくる。
- 情報のとらえ方の違いは現実の社会でも起こりうるので、自分たちも気をつけていく必要がある。

ここで使用するワークシートは、Webに掲載しています。

スマイル・プラネット

検索

もっと知りたい! 職業のこと

—— 新聞記者 ——

株式会社 日本経済新聞社

三木 理恵子さん



東京の再開発の記事を書いた直後に、読者の方から手紙が届きました。怒っているのではなく、「一方的に再開発について伝えるだけではなくて、問題点についてもちゃんと話を聞きに来てほしい。」というものでした。メディアって、声の大きい方の話を取り上げがちだと言われることもありますが、行政・企業・地域など、いろいろな立場の人の声を取材しなければいけないと思いました。

▶ 続きはWebで。